【国指定史跡】

あまみおおしまようさいあと
奄美大島要塞跡

（令和５年３月20日指定）

奄美大島要塞跡（手安弾薬本庫）

奄美大島要塞跡（西古見砲台第二観測所跡）

（写真提供：瀬戸内町教育委員会）

○ **所在地**　大島郡瀬戸内町大字手安字金釜原465番１外８筆等

○ **所有者**　瀬戸内町ほか２団体

○ **特　徴**

奄美大島要塞跡は，大正10年（1921）から建設が開始された陸軍の要塞跡です。昭和６年（1931）頃より弾薬庫や砲台が建設され，奄美本島西南端の西古見砲台跡では砲座（砲を固定する台座），砲台弾薬庫等や観測所が，加計呂麻島東端の安脚場砲台跡では砲座などが残ります。要塞司令部のあった奄美大島の古仁屋近くには手安弾薬本庫跡があり，ここから弾薬等が各砲台へ供給されました。

奄美大島要塞跡は，遺構がまとまって残っていて要塞全体の理解ができるとともに，近代日本の国防施策を考える上でも重要な遺跡です。